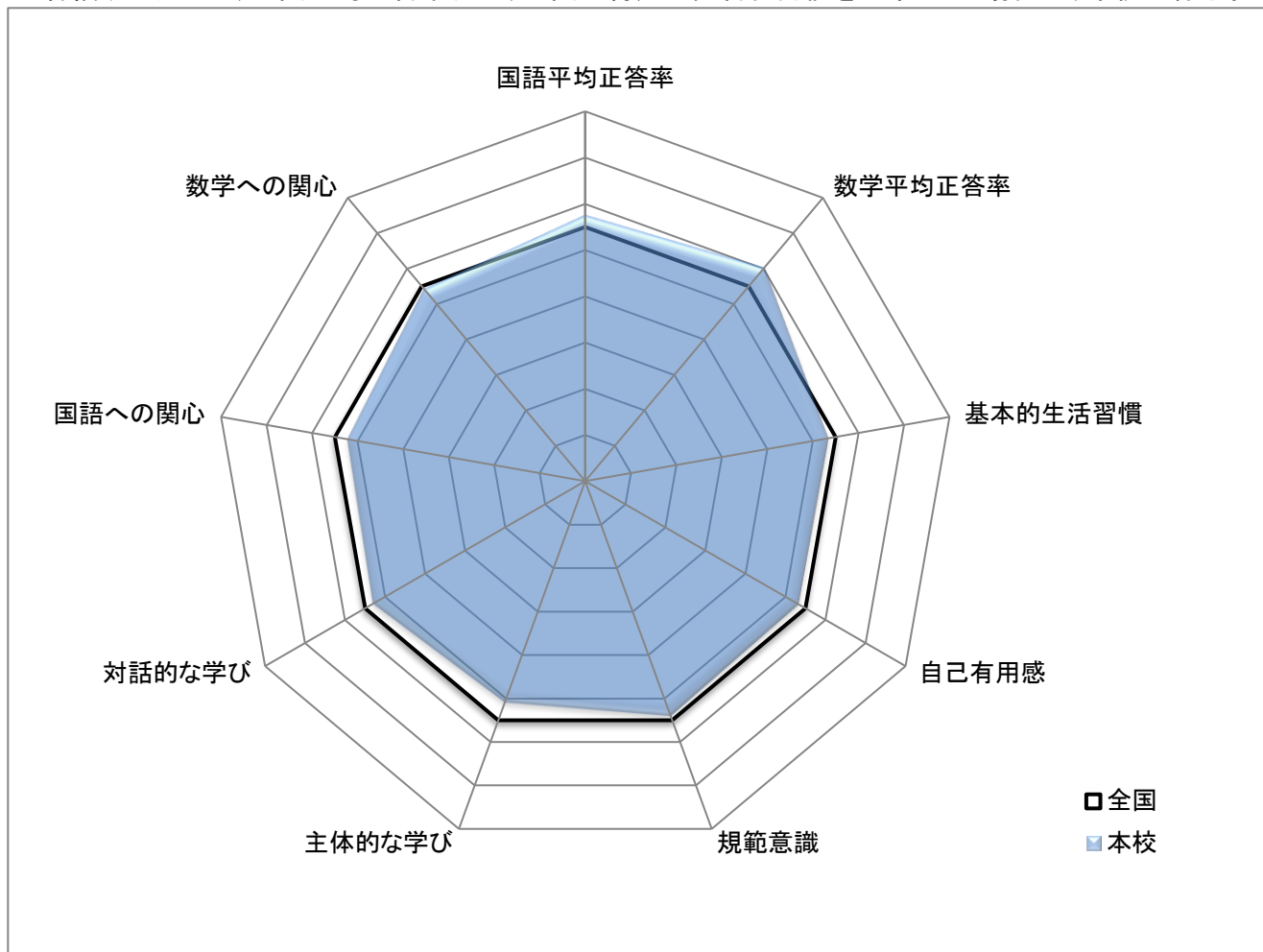


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・前年度と同様に実施教科での正答率は全国の平均を上回り、都の平均を数学が上回り、国語で同ポイントであった。両教科ともにICT機器を効果的に使用し、基礎学力の定着によりC・D層の減少を目指し、課題解決能力を重点的に育成しています。
- ・学習習慣において、計画的に家庭学習を取り組めない生徒がいる。各教科で学習の方法を具体的に伝えていきます。
- ・規範意識においては組織的な生徒指導を通して人権感覚をさらに高めていきます。
- ・自己有用感の育成については職業調べ・職場体験を通して自ら生き方を考えさせるキャリア教育に力を入れていきます。
- ・各教科での対話的な活動を深めるためにも、学級での対話的な活動を通して課題解決・合意形成を図る活動を増加させていきます。

《授業改善のポイント》

- ・わかる授業をさらに実施するために、本時の目標(めあて)を確実に伝え明確な目標をもって取り組めるようにしています。さらにICT機器を効果的に活用し理解を深める指導を行います。
- ・計画的に家庭学習を行う習慣をつけるために各教科で家庭学習の方法等を生徒にわかりやすく伝えていきます。
- ・教科等の特質に応じ、どのような考え方で思考するか(見方・考え方)を授業の中で高め、学習する意義を実感させていきます。
- ・話し合い活動等を通して、自らの考えを広げ深め、協働して課題を解決する力を育成していきます。
- ・授業終了時または単元終了後に振り返りを必ず行い、生徒自身に活動の状況を把握させ、自己評価力を高めることにより、学習調整力を高め、自己成長力を育成していきます。
- ・ICT機器を効果的に活用し、基礎学力の確実な定着と発展的な課題を解決する実践的な力を育成していきます。

《チャートの特徴》

- ・数学は全国・都・区の平均正答率を上回り、C・D層の割合はともに全国・都・区平均以下になっています。「思考・判断・表現」が都の平均正答率に比べ0.2ポイント下回り、関数のみ都と同ポイントで他の領域はすべて上回っています。
- ・国語の正答率は全国・区を上回り都と同じで「思考・判断・表現」「話すこと・聞くこと」が都の平均正答率を下回っている。
- ・学習習慣において、家庭学習が1時間以下の生徒は34.2%であり、東京都の平均より上回っています。社会貢献に対する意識が高い生徒が65.2%であり、全国・都の平均よりも低くなっている。
- ・自分に良いところがあると82.9%の生徒が答えているが、将来の夢・目標をもつ生徒が60.6%にとどまっている。
- ・学校に行くことが楽しいと答えた生徒が82.9%、困っている人がいたら助けると答えた生徒は88.1%でいずれも全国・都の平均とほぼ同じである。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・日常の教育活動、学力調査結果等の情報をホームページ等で保護者・地域に発信し、学校の現状を理解していただき、連携を深めていきます。
- ・保護者に対して三者面談・家庭連絡を通じて、生徒の状況を把握していただき、連携して生徒を育成していきます。